

令和5年度（2023年度）

金沢大学法科大学院

小論文試験

**B 日程問題**

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は5枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。

## 令和5年度（2023年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

|      |     |
|------|-----|
| 試験科目 | 小論文 |
|------|-----|

次の文章は、大竹文雄『競争社会の歩き方』（中央公論新社、2017年）の一部である。  
これを読んで、次の問いに答えなさい。

なお、出題に際して、原文が縦書きのものを横書きにする、表題を省略するなど、原文の一部に改変を加えてある。

問1 (40点)

筆者は、下線部①において、「しかし、選挙を行えば本当に正しい民意が反映されるのかについては、経済学でも議論が行われてきた問題だ。」とするところ、下線部②では、「候補者の競争と集計の奇跡を信じるなら、選挙の結果は、まじめに政策を考えた有権者の意見を

反映していることになる。」とする。下線部①のような問題が議論される理由、及び、下線部②のような結論が導かれる理由について、本文に示されている見解をまとめつつ、500字以内で説明しなさい。

問2 (60点)

下線部③において、筆者は「それでも、私たちの子供たちが将来豊かな生活を送ることができるようにするためには、自分たちの世代だけが得をするような選択をできるだけしないような仕組みを作っていく必要がある。」とするが、筆者がそのような問題意識を有している理由を簡潔に説明し、そのためにはどのような制度が導入されるべきかにつき、本文に示された制度も参考にしつつ、700字以内で自らの見解を論じなさい。